

(様式1)

令和元年度 目標達成計画

園所名 三木市立上の丸保育所

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

教育・保育目標		
○心のやさしい子	・自分の思いを相手に伝えられる子	・相手を思いやる気持ちをもてる子
○元気いっぱいの子	・自分のことを自分でできる子	・のびのび遊ぶ子
○約束を守る子	・自分で考え行動できる子	

【目標達成計画】

項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価	
共通課題	・お散歩等園外での保育活動における安全対策について	・散歩ルートを見直し、一番安全なコースを再確認するとともに、散歩時の安全対策の見直しをする。	・お散歩マニュアル、マップの作成 ①保育士目線でのマニュアルを作成し、安全対策や園外での災害時の対応等を共通理解する。 ②子ども目線での散歩マップづくり（危険ポイント、見つけたよポイント）	・「おさんぽマニュアル」を作成したことで、職員自身がこれまで意識しなかったことにも気付くことができ、園外活動時に活用することができた。 ・子ども達が積極的に、目的地までの現地での調べ活動をし「おさんぽマップ」を作成することで、実際に出かけた時に「ここは止まらないと…」など、自分たちから意識して確認する姿が見られ、安全意識が高まった。	・職員が散歩ルートを再確認して「おさんぽマニュアル」を作成し、安全対策や災害時対応等についての共通理解に役立てている。 ・子どもたちが実際に散歩コースを歩き、穴・白線・階段等の危険箇所・注意ポイントや、どんぐり発見場所等についての情報を持ち寄り、子ども手作りの「おさんぽマップ」を制作している。自分たちの気づきをマップにすることで、安全意識を高める取り組みになっている。 ・散歩に出かける前に防犯カメラに手を振って、服装や姿を映像に残す工夫をしている。	
良いとこ自慢！	保育内容面	・今年度は4、5歳児のみの受入れとなっているため、小集団での保育となる。 友だちとのかかわる力やコミュニケーション力の育ちの観点からの課題があるが、反面、4、5歳児だからこそできる体験も保育に取り入れることが可能である。	・他園との交流の機会をつくり、同年代との友だちとのかかわる力を育み、遊び体験を広げる。 ・（ふれあい交流や運動会遊び交流等）つながりをきっかけに、子ども達の自発的な交流に繋げる。 （「ひまわりの種とれたよ」「お米ができたよ」など、手紙やFAXを通して）	・交流遊びをきっかけに他園の子ども達とのして来た遊び（運動あそび、マジックショーなど）に興味をもち、遊びが広がった。 ・交流時にももらったお米を育て、お礼の手紙をFAXで送ったり、自分たちの育てたひまわりの種をあげようと考え、プレゼントしたりするなど、日常的には出会えないが、相手を意識し、発信しあう姿がみられた。 ・自分たちが調べた「冬眠クイズ」を見てもらう機会をもち、発表し、伝えたことで、自信や自己肯定感につながった。	・落ち着いた環境の中で、一人一人が伸び伸びと育っている。自由な雰囲気の中で、子どもたちを中心に遊びが発展している。遊びの深まりや広がり、子どもたちから発信されたものである。それだけでなく、科学的で探究的な活動が行われており、一つのテーマに深く入り込んで子どもたちが調べたり考えたりしている。お互いを大切に思う心と、知的に探究しようとする心の両面が育っていると言える。 ・園庭や室内では、年齢・クラス関係なく自由に遊びが進められており、異年齢間の交流が自然に行われている。また、個性的な子どもたちも多い中、お互いの特性に合ったコミュニケーションが成り立っている。保育者は、深い子ども理解に基づき、年齢や個性の異なる子どもたちをうまくつなげるような工夫をしている。結果として、子どもたちに豊かな社会性が育まれている。	
	管理運営面	・保育所独自の危機管理マニュアルを作成し、災害別の危機管理体制を整理している。また、毎月の避難訓練では、様々な災害や状況を想定した訓練を実施し、園児の安全確保に努めている。	・シフト勤務により、担当職員が不在の時もある。基本の担当のみでなく、誰がその役割を任せられても臨機応変に対応できるように、いろいろな状況を想定して危機管理意識を高める。	・様々な災害や状況を想定した、避難訓練の実施。（夕方保育、土曜保育、早朝保育時など、職員の少ない時間帯での訓練。地震、火事、不審者対応など、発生場所により避難経路を変えたり、いろいろな保育場を想定して実施する）	・年間計画のもと、いろいろな内容や状況等を想定し、より実践的な訓練を繰り返すことで、職員の危機管理意識を高めることにつながっている。 ・訓練記録をまとめ、職員で回覧することで、その日参加できなかった職員にも反省等の共有ができています。	・保育所独自の「危機管理マニュアル」を整備している。避難訓練の年間計画を作成し、各種災害や不審者対応の訓練を毎月実施している。様々な時間帯や状況を想定し、実践的な訓練ができるよう取り組まれている。 ・訓練実施後は振り返りを行い、実施状況や課題を訓練記録に詳細に記録している。訓練記録を回覧して職員間で情報共有し、反省等を活かせるよう取り組まれている。
ここを改善！	保育内容面	・保育者がそれぞれに、遊びのねらいや幼児理解の観点が異なることがある。それを日々の保育について、話し合い、情報交換しながら共通理解する場が必要だが、日々の保育の流れの中で確保が難しい。	・子どもの遊びや生活の姿からみつけた「キラリ・ワクワクポイント」を伝え合う。	・「キラリ・ワクワクポイント」を連絡ノートで活用し、職員で共有しながら、日頃の子ども理解を深める。 ・一人一人の興味のあることを、十分に遊び込める環境作りをする。 ①戸外遊び、クラス活動時の自由遊びの見直し・充実 ②支援を要する子の自己充実のための遊びや生活の充実	・一人一人が安心して自己発揮し、興味を突き詰めて遊べる環境づくりを保育者が意識し、“やってみよう！”“子どもに任せてみよう！”“どう発展するだろう”と思いながら、見守れるようになってきた。 ・少人数のグループ活動を取り入れることで、「聞いてほしい」「見てほしい」欲求が満たされ、子ども達の自己肯定感につながった。	・それぞれの個性や力の幅がある子どもたちが、お互いに認め合い、支え合いながら生活している。それぞれの特性に合った保育の工夫がなされており、性格や特性に合った形で集団での活動に参加できるように保育者が創意工夫している。そのため、子どもたち一人一人が自信を持って活動に参加しており、お互いに尊重しあうような雰囲気が培われている。
	管理運営面	・前回、課題としてあがった「職員伝達事項の書面化」については「連絡ノート」を作成し、定着してきた。しかし、事務連絡中心になっているので、内容を充実させたい。	・「連絡ノート」の内容を整理し、充実させる。 保護者への事務連絡事項 怪我・体調等の危機管理事項 保育内容や子どもの姿 （キラリ・ワクワクエピソード）	・「連絡ノート」を家庭と保育所間の連絡事項だけでなく職員間での情報共有にも生かす。 ・ケガや体調不良等については、誰がいつ誰に伝えたのかを明記し、かつ、事後確認欄を設け、明確にする。	・既存の書式に、「キラリ・ワクワク」欄を設けることで、徐々に子どもの良さを書き留める習慣ができてきて、職員で共有したり、保護者にも、誰もが伝えたりする事ができてきた。 ・怪我や体調不良等の事後確認やヒヤリハット記録等の確認欄を設け、全ての職員が把握でき、危機管理の意識付けになっている。	・「引継ぎ連絡ノート」の活用方法を職員間で話し合い、引継ぎ事項・保護者への連絡・体調不良・子どもの姿等を、職員の間で見ても引き継げるような記入欄を設け活用している。また、誰が誰に伝えたかの欄も設け、引継ぎ事項が確実に伝達できるよう工夫している。 ・記録にチェックしてヒヤリハット事例・軽微事故事例の違いを明確にし、効率よく簡潔にまとめられている。記録を供覧して危機管理意識を高め、確認印で周知を確認している。